

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 認知症テキストブック(日本認知症学会編)	共著	2008年9月	中外医学社、東京	<p>全体の概要:日本認知症学会が企画した認知症診療の基本的なテキストであり、専門医試験の基準とされている。 (総頁数:365頁) (著者名:加世田ゆみ子、三森康世、朝田 隆、本間 昭、東海林幹夫ほか18名) 担当分の概要:5.認知症の検査・評価尺度の中の生理学的検査の項を分担執筆した。 (担当頁:pp150-152、共著)</p>
2 (著書) 老年医学への招待	共著	2010年10月	南山堂、東京	<p>全体の概要:医療従事者を対象とした老年医学に関するテキストであり、高齢者の特性、臨床医学、終末期医療、リハビリテーション、今後の展望などについて平易に解説している。 (総頁数:291頁) (著者名:中村重信、三森康世) 担当分の概要:共著につき本人担当分抽出不可能。 (担当頁特定不可能)</p>
3 (学術論文) Combination of the presence or absence of cerebral microbleeds and advanced white matter hyperintensity as predictors of subsequent stroke types.	共著	2006年4月	Am J Neurorad 27:830-835 2006.	<p>要旨:脳MRIでみられるmicrobleedsと白質病変の存在はいずれも脳血管障害の危険因子とされているが、それぞれの意義が異なることを示した。 (論文の頁数:pp830-835) (著者名:H Naka, E Nomura, T Takahashi, S Wakabayashi, Y Mimori, K Kajikawa, T Kohriyama, M Matsumoto) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 (担当頁特定不可能)</p>
4 (学術論文) Incidence of dementia among atomic-bomb survivors - Radiation Research Foundation Adult Health Study.	共著	2009年3月	J Neurol Sci, 281:11-14, 2009	<p>要旨:広島原爆被爆者と対照について認知症の発症率と過去の被爆線量の関係を検討したが有意な関連はみられなかった。 (論文の頁数:pp11-14) (著者名:M Yamada, F Kasagi, Y Mimori, T Miyachi, T Ohshita, H Sasaki) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 (担当頁特定不可能)</p>
5 (学会発表) 一般外来患者における認知機能障害と甲状腺機能異常との関連:広島市医師会臨床検査センター臨床甲状腺研究会認知症対策プロジェクト調査結果.	共同発表	2009年11月 20~22日	第28回日本認知症学会学術集会	<p>要旨:一般外来患者で物忘れを訴える患者ではうつおよびうつ傾向の割合が高いことを示した。また男性に限るとうつがなく認知機能障害を認める者の中には血清TSHが高値をとる傾向があることを示した。 (発表者名:三森康世、加藤雅史、江草玄士、前田 亮、井上典子、牛尾剛士、長崎孝太郎) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>